

学校名		鹿島市立浜小学校		達成度（評価） A：十分達成できている B：おおむね達成できている C：やや不十分である D：不十分である	
1 前年度 評価結果の概要	・課題とされた総合的な学習の時間の見直しは5年・6年生で実行し、新たに内容や人材を開発することができた。さらにより良い内容に改善するとともに、その学年を3・4年生まで広げる。 ・「運動・体力アップ」の項目は、「2024 浜小全員アスリート計画」や体力アップ週間等を行事計画に盛り込み、楽しく運動して体力をアップできるようにする。 ・キャリア教育は、昨年以上に県の事業や地域人材を活用し、より多くの体験学習を行うことができた。次年度はその内容を整理しつつ実行し、足りなかったと思われる職業選択につながる取組を増やしたい。 ・算数科の校内研究、学習状況調査の結果を活用した研修等を全職員で取り組み、成果が見られたが、今年度から取り入れているデジタルドリルは活用の仕方に学年によって偏りがあり、適時に効率よい取組の方法を検討する必要がある。 ・校内の各部会が組織的に機能し、多くの項目で達成・改善が見られた。				
2 学校教育目標	ふるさと愛する・光の子の育成				
3 本年度の重点目標	①自ら学び続ける子供の育成「ひびきあう子供部会」（知） ②思いやりのある子供の育成「かがやく子供部会」（徳） ③たくましい子供の育成 「りっぱな体部会」（体）				
4 重点取組内容・成果指標				5 最終評価	
(1)共通評価項目					
重点取組		具体的取組		最終評価	
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践	○「おすすめの本」完読率94％以上	・日々の図書委員会の取組や教師の声かけなどによって、読書推進を図る。 ・みんな読、読書集会、図書館祭り、家庭読書などの取組を充実させる。	A	・「おすすめの本」完読率は2月末現在で94％。完読しようという児童の意識も高まっている。 ・学年集会、おすすめの本ポップコンテスト、図書館祭りなどのイベントを楽しみながら、積極的に読書に取り組めた。読書ノートの活用は全学年できた。
	○算数科を中心に、主体的に学びたいくなるような授業方法の確立	○「算数がすき・まあまあすき」と回答した児童が80％以上。 ○「問題をなんとかして解こうとしている」と回答した児童が80％以上。	・主体的に学習に向かうように、単元構成や対話活動を工夫する。 ・学習習慣や学習環境、朝の特設タイムを充実させる。	B	・校内研究の取組の結果、新しい問題に挑戦しようという姿勢、対話活動やかく活動においては成果がみられた。「問題をなんとか解こうとしている」と回答した児童85％。 ・「算数がすき・まあまあすき」と回答した児童は60％と低く、児童の思いに寄り添った授業改善が必要である。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「友達の悪口を言わずみんな仲良くした」と回答した児童95％以上 ○「子どもは元気にあいさつができる」と回答した保護者87％以上 ○「家族や地域の人にも元気にあいさつをしている」と回答した児童95％以上	・年に1回以上、ふれあい道徳や人権週間を計画し、他者を思いやる気持ちを育む。 ・道徳や学活、日常生活で友達のいいところを見つけ、全校放送で紹介したり、ありがとうの木に掲示したりする。 ・5、9、1月をあいさつ強化月間とし、友達や地域の方に自分から進んであいさつをするように呼びかける。	B	・「友達の悪口を言わずみんな仲良くした」と回答した児童は、昨年度より増加しており、目標を達成している。人権集会やふれあい道徳の取り組みにより児童の自己肯定感が高まったことで友達に優しく接することができるようになったと考える。 ・「子どもは元気にあいさつができる」と回答した保護者や「家族や地域の人にも元気にあいさつをしている」と回答した児童も昨年度よりも減少している。挨拶に関する取組がマンネリ化しているように考えられるため、来年度は、新たな取組を取り入れていく。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめや不登校等の未然防止への「組織的な対応ができている」と回答した職員88％以上	・いじめの対応についての研修を行う。 ・「あのねアンケート」を定期的に実施し、悩みや不安を抱える児童との面談を行い、継続的に見守る。 ・長期休暇前後に不登校チェックシートを使って、児童の状態を確認し、対応する。 ・週1回、気になる児童についての共通理解の場を設定。 ・SC、SSWと連携し、児童や保護者との面談を実施し、ケース会議で取組等の確認をする。	A	・いじめや不登校等の未然防止への「組織的な対応ができている」と回答した職員が100％。 ・人権集会を通して、SNSの使い方についてのモラル教育ができた。また、2月に、親子でSNSの使い方について考える学習を実施した。 ・SSWやSCと連携し、面談や家庭訪問等で児童の心のケアを行った。 ・QUアンケートや「あのねアンケート」、気になる児童についての共通理解の場の設定を継続的にやっている。
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童90％以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童90％以上	・お昼の放送で「はまもんほめほめタイム」を行い、「いいところ見つけ」につながる日々の観察を全職員で協力しながら行う。1年間で全校児童を1回はほめる。	B	・「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童は目標を下回っていた。「はまもんほめほめタイム」は継続して実施したが、児童に褒められたという実感があまりなかった。掲示物等で、紹介するコーナーを設け、良さを再確認するような手立てが必要と考える。 ・キャリアに関する本をおすすめの本に加えるなど、児童がキャリアについて知る機会を設けた。
●健康・体づくり	●「運動習慣の改善や定着化」	●「よく運動したり、体を動かしたりして遊んでいる」と回答した児童95％以上	・11月から昼休みにマラソンチャレンジを実施する。 ・スポーツマンズリー期間を設定し、体を動かす機会を確保する。 ・スポーツチャレンジの実施を呼びかけ、全校で実施する。	B	・「よく運動したり、体を動かしたりして遊んでいる」と回答した児童は85％。体育館改修の影響が考えられる。 ・10月はスポーツ体験会として「バッコー」「ポッチャ」の体験会を行い、体を動かすことが苦手な人でも楽しめるスポーツの実施ができた。 ・長縄タイムは全学年で実施できた。 ・スポーツチャレンジは全校で取り組むことができた。
	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に良い食事をしている」児童90％以上	・朝ごはんについて、毎週火曜に調査し、食に関するポスター等を毎月掲示する。 ・配膳表を通して食への興味・関心を高めさせる。 ・各学年の実態に沿った食育の授業を全学年年間一回以上実施する。(6月:2年生、10月:3年生、11月:5年生、12月:4年生、1月:6年生、1年生:9月給食試食会) ・給食時間に給食目標に沿った放送を行う。	A	・朝食調査、掲示物、配膳表、給食時間の放送については、年間を通して実施することができた。 ・「健康に良い食事をしている」児童の項目で肯定的回答は88％だった。 ・食育授業は、年間計画に沿って全学年実施することができた。 ・日常的な給食指導については、全職員で年間を通して実施できた。
	●「安全に関する資質・能力の育成」	●「学校の行き帰りは事故に遭わないように注意している」と回答した児童93％以上 ●地域と連携して、年三回の防災訓練を実施	・関係機関と連携し、交通安全教室や避難訓練を実施する。 ・登下校時のPTAや交通指導員との協力体制を維持、継続して、危険個所を早期に発見し指導する。 ・自然災害時の下校等の対応について確認する。	A	・「学校の行き帰りは事故に遭わないように注意している」と回答した児童は99％で、目標を上回った。 ・交通安全教室や、年三回の防災訓練は、年間計画に沿って実施することができた。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●月の時間外在校等時間が45時間を超える職員の割合10％以下	・時間外在校時間月平均25時間を目標にする。 ・定時退勤推進日を毎週金曜日に設定する。 ・休暇が取りやすいように声をかけ、年休の取得を促す。 ・サーバーの整理とICT利活用で、効率化を図り、会議時間を短縮する。	A	・月の時間外在校等時間が45時間を超える職員の割合2％ ・10月から職員連絡会を隔週にすることで、会議の回数を半減させた。 ・年休取得5日未満の職員数0％、1人当たり平均13.4日。

